

祓團子 駿河宇都山十團子 近江柳團子

〔宗長手記〕十六日〇大永四年六月四府中折節夕立して宇津の山に雨やどり此茶屋昔よりの名物十。だん。ごと云一杓子に十づ、必ずめらうなどにすくはせ興じて夜に入て著府。

〔東海道名所記三〕坂津○山字のあがり口に茅屋四五十家あり家毎に十團子をうる其大きさ赤小豆ばかりにして麻の緒につなぎいにしへは十粒を一連ねしける故に十團子など、いふならしこれにつきて不圖思ひ出せし事あり、四月十六日に三井寺にせんだん講といふ事ありそれを俗に千團子といひならはし團子一千をつくりてもちてまいれば子どもの首かたしとかや申つたへし、

〔本朝世事談綺飲食〕飛團子。

正徳元年の夏甲州八日市場の不動尊回向院に開帳ありし時、兩國橋の東詰松屋三左衛門といふ漫匠はじめてこれを製すはじめは景勝團子と云尊貴の人の名ははかかるべき事と所の長ども制しけるにより、その、ち越後團子と稱す壯士うすつくといへども、つぶれざるを北越長尾家の鉢先に比して名付しとかや、但し越後の名物にてはなきよし也、ちかき頃京大坂にはやり、淨瑠璃にも作りこみてもてはやせり、

〔江戸名物詩初編〕丸屋大團子御藏前瓦町

土間店廣御藏前丸屋盤中團子圓評判從來大安賣一盆喰盡腹便々

〔江戸喰物重寶記〕米つき團子 本所みどり町 春屋金兵衛 笹だんご 日本橋木原店
さらしな團子 米澤町二丁目 丸屋宗齋 おかげだんご 飯倉片町 布袋屋藤四郎
さらしなだんご 兩國米津本蘭陵〇 中 よし野だんご 三河屋〇中
龜澤屋丹波 糊町七丁目 略

〔沙石集五上〕學匠之蟻蠅之間答事